

こんにちは。

12月の初めについて日本に帰国しました。今改めてオーストラリアでの留学生生活を思い返すと、まるで現実ではないような、夢であったのだろうかというような感じがします。最近では日本の生活にすっかり戻ってきた一方で、培った英語力が落ちてしまうのではという不安も抱えています。

さて、今回は帰国間際のこと、そして自分で考える成長した部分について書こうと思います。11月には学年末テストがあったため、私も友達もテスト対策に追われていました。しかし友達がそんな中時間を割いてくれて、最終日にはテスト期間の真っ只中であったにもかかわらずお別れパーティーをしてくれました。学校の先生も「私もあなたの友達もとても寂しくなる」と言ってくれたり、メールを送ってくれたりしました。ゴールドコーストから出発する早朝には、ホストファミリーが私の帰国を泣いて寂しがってくれて、寂しいけれども彼らと過ごせて良かったなと感じました。私を家族の一員として受け入れ、映画鑑賞などの様々な楽しいことを共有し、コロナウイルスで大変だった時期も支えてくれたホストファミリーには本当に感謝しかありません。出発後は、同じ次世代リーダー育成道場の生徒、先生とブリスベンにある宿泊施設に向かい、そこでクイーンズランドに留学していた次世代生に再会しました。次世代生の1人1人の話を聞いたときに、一見順風満帆なように見えていた彼らの留学にも多くの困難があったのだということを知り、事前研修と約一年間の留学を終えた自分たちを本当に誇りに思いました。翌日ブリスベンからシドニー、そして次の日にオーストラリアを出国し、東京へ到着しました。

日本に帰ってきてから感じた自分自身の変化は大きく二つあります。1つ目は外国の方に対して親身に考えるようになったことです。留学する前は、外国の方に対して「何を言っているかが分からなくて怖い」と思い話すのを遠慮してしまったり、偏見を持っていたりする時がありました。しかしオーストラリアでは、私自身が彼らにとって外国人でした。日本からやってきて簡単な会話すらままならなかった私に対し、色んな人がコミュニケーションを取ろうとしてくれ、また助けてくれました。その体験によって私は、人の優しさは国籍や人種を越えて共通のものである、ことを痛感しました。今では前に持っていた外国の方に対する「よくわからなくて怖い」という気持ちはなくなり、むしろ日本に来た外国の方に関しては「異国で生活なんて大変だよなあ、分かる」といった仲間意識まで感じる場合があります(笑)。2つ目は自分がより主体的になったことです。見知った友達や家族がいない環境では、誰かに頼って任せるのではなく、自分で物事を決め行動しなければならない機会が非常に多くありました。そんな生活は時々大変でもありましたが、「やりたいことがあるなら自分からアピールしていかないと！」と自分の中で積極性が育まれ、結果として私はオーストラリアで沢山の友達を作ること、演劇の授業で自分のやりたかった役を自分の考えた舞台をもとに演じることもでき、行動して良かったと心から思います。今では人前でも自分の意見を臆さず伝えられるようになりました。

この留学は英語力の向上以上に自分という人間を精神的に成長させてくれました。出来たらもう一回行ってみたい！とさえ感じます。それ位私の人生の中で大きな体験でした。

白鷗高校 12期生 次世代リーダー 8期生 O. O